

【事業所名】 養護老人ホーム万寿園 ・ 軽費老人ホーム第三万寿園

I 事業運営の基本方針

高齢者の生活を地域で支えるための地域包括ケアシステムの構築が推進されている。
「養護老人ホーム」「軽費老人ホーム」に求められているセーフティネット機能及び地域ニーズに的確に応え続けることができる施設としての役割と機能の維持向上に努める。

II 中期的目標

項目	内容
1. 事業を支える安定した経営	養護:2025年4月1日から、定員を150名から120名に変更し、障害者等加算の算定の継続を維持するとともに、措置機関との連携と信頼を構築し、措置入所者の確保に繋げていく。契約入所も積極的に受け入れ、収入面を補填していく。 軽費:養護との合築である環境や職員配置を有効に活用し、入所希望待機者の状況を把握することで満床状態を維持していく。
2. 地域社会から信頼され貢献できる施設として	養護・軽費共通:(1)関係機関と連携を図りながら、施設の役割・機能を地域の方々に周知し、地域住民のニーズに応えられる事業を展開していく。 (2)公益性の高い社会福祉事業の担い手としての自覚を持ち、地域社会から信頼されるよう、法人の行動指針を守って行動する。
3. 養護老人ホーム万寿園の今後の在り方の検討	措置入所の減少と建物の老朽化も併せて、定員変更後の万寿園をどのように維持・継続していくのか、需要のある事業に転換するのか等、検討していく。

III 年間計画(進行管理表)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
年間計画	利用者全体懇談会 利用者体力測定 研修:事故防止①	菖蒲湯 研修:身体拘束① 防災:IP活用訓練	研修:感染症対策① 防災:安否確認 mail	七夕 年回忌法要 研修:伝達研修 防災:消火訓練	夏祭り 研修:虐待防止① 防災:夜勤者訓練	利用者全体懇談会 敬老祝賀会 彼岸法要(秋) 研修:事故防止② ストレスチェック 防災:総合防災訓練	研修:認知症研修 防災:停電想定訓練 第三者評価	運動会 研修:身体拘束② 防災:夜勤者訓練	利用者全体懇談会 紅葉ドライブ ゆず湯 お餅つき大会 研修:伝達研修 防災:総合防災訓練	初詣 初釜 研修:感染症対策② 防災:夜勤者訓練	節分 コンプライアンス研修 防災:安否確認 mail	ひな祭り飾りつけ お年寄りの作品展 出展・見学) 彼岸法要(春) お花見 研修:虐待防止② 合同防災訓練 苦情解決第三者 委員会
	○利用者サービスへの取組(行事:上記、年間計画 毎月:意見箱の回収 3か月毎:事故苦情防止委員会、虐待防止・身体拘束適正化委員会 随時:食事サービス委員会 毎週:支援計画更新・カンファレンス) ○職員への取組(※研修:上記、年間計画、法人研修、外部研修、入職時研修、セキュリティ研修 ※面接:自己申告書 毎月:安全衛生委員会) ○地域社会への取組(学校等交流:保育園・小学校・高校 夏休み:お昼ご飯お届け事業 ボランティアクラブ:近隣清掃等) ○経営基盤強化への取組(毎月:施設経営会議、職員会議 仮称 万寿園プロジェクトチームの立ち上げ)											

IV 事業の計画

事業の概要	取り組む課題
1 利用者サービスへの取組	
(1)人権尊重の徹底 利用者本人の意思を尊重しつつ、支援の内容と意義の理解を図りながら、現実的で可能な限り自立した生活が確保できるよう、質の高いケアを提供する。	① 利用者の意思を尊重し、各係連携のもと、適切なアセスメントとモニタリングにより課題を把握して、より具体的な対応を明確にした支援計画を策定する。 ② 利用者支援の情報を共有し、各利用者の支援計画に対する職員の認識の統一を徹底する。
(2)苦情解決・相談体制の整備 苦情の前段階である希望・要望を汲み取る。	① 意見箱や口頭での相談など、日頃から利用者の要望を共有して適切に対応し、クレームに発展しないようにする。
(3)事故防止対策 事故苦情委員中心による事故報告内容の共有化及び再発防止策の取組強化	① 朝礼時間を使って事故報告内容を迅速に共有して再発防止に取り組む。 ② 転倒事故防止に有効な理学療法士の個別リハビリや週1回の施設内リハビリを実施していく。

<p>(4)サービスの質の確保 季節ごとの行事の企画・実行、利用者の主体的活動を促進するクラブ活動の活性化 「健康の維持」「食の楽しさ」に向けた取組</p>	<p>① 基本的な生活支援はもとより、利用者にとって生きる活力源となるような余暇活動を企画・実施する。 ② 食事サービス委員会を中心に新しい献立及び提供方法などを検討し、食の充実を図る。</p>
<p>2 職員への取組</p>	
<p>(1)人材の確保・育成・定着 ホームページの求人情報の更新 職員紹介制度について、在職職員に広く周知する。</p>	<p>① 広報委員会で定期的に更新し、求職者が欲しい情報を充実させる。 ② 法人内広報「あおぞら」発行時に事業所内の職員全体へ情報共有をしていく。</p>
<p>(2)人材の活用 有期職員に雇用契約更新希望について確認し、更新時には面接を行う。</p>	<p>① 人材が不足している曜日や時間帯について、有期職員の面接時に雇用条件の変更(日数や時間を増やす等)の相談を行い、在職者を活用する。</p>
<p>(3)職場環境づくり 上司や後輩など、立場や職位の関係なく、職員全体で明るくポジティブな職場環境づくりに取り組む。</p>	<p>① サンクスカード(職員間で感謝の気持ちを伝え合う) にやりホッと(現場であった利用者との出来事から)など職員の貢献を可視化することで、ポジティブな話題を共有できる取り組みを考えていく。</p>
<p>(4)人事給与トータルシステムの構築</p>	<p>① 法人内ネットワークとしての「勤次郎」や「人事郎」を、さらに活用していくことで効率化を促進する。</p>
<p>3 地域社会への取組</p>	
<p>(1)地域貢献 社協を通じての事業協力依頼や施設設備の開放や備品の貸し出しなどの要請に応じていく。</p>	<p>① 夏休み期間の「お昼ご飯お届け事業」のお弁当調理への協力を継続していく。 ② 富士見町あいさつ運動(毎月28日、小学校校門前でのあいさつ運動)へ施設利用者の参加を試みる。 ③ 施設内スペース(会議室や5階ホール等)の利用開放や施設備品の貸出への協力を継続していく。</p>
<p>(2)災害対応 実情に即した地域防災を目指し、地域自治体との協力体制の推進を図る。</p>	<p>① 地域応援協定を結んでいる南台自治会との合同防災訓練を実施し、大規模災害時における相互応援体制の確立を目指す。</p>
<p>4 経営基盤強化への取組</p>	
<p>(1)収入増への取組 【養護】養護契約利用料の引上げを検討する。 施設積立金の預入先を検討する。</p>	<p>① 定員変更に伴う収入のシミュレーションを行い、収入の安定化を図る。 ② 措置機関との連携強化を図る。 ③ 物価高騰や養護措置費改定があることから、契約利用料について引き上げを検討する。 ④ 社会福祉法人の許容範囲で利率の高い金融商品への移行を検討する。</p>
<p>(2)コスト削減への取組 ランニングコストの見直しを検討する。</p>	<p>① 電気料金等の光熱水費のプラン変更で削減できるかなどを契約業者へ確認していく。 ② 事務用品、消耗品等の使用状況を見直し、無駄を省く。</p>
<p>(3)施設設備等物的基盤整備 【養護】一部個室化の有効活用</p>	<p>① 定員を150名から120名の変更により、全室二人部屋から一部個室化し、利用者のプライバシーや生活環境の改善を図り、新規入所に繋げていく。(個室化には改修を必要とせず、施設整備費は使用しない)</p>
<p>(4)組織・システム NI Collabo の活用</p>	<p>① NI Collabo のグループウェア機能を運用し、定型的業務の時間削減と文書管理の徹底に取り組む。</p>
<p>(5)災害・感染症対応 BCP の見直し</p>	<p>① BCP や災害時のマニュアルの見直しを職員全体で行い、実情に即した内容に変更する。 ② 災害発生時に取り出しやすい備蓄場所や非常食の適正化を考える。</p>
<p>(6)危機管理 IP 無線機を使用した訓練の実施</p>	<p>① 災害時に活用できるよう、職員全体に使用方法を周知し、実際に防災訓練等で使用方法の訓練を実施する。</p>
<p>(7)情報セキュリティの強化 業種に関わらず、職員全体の意識を高める。</p>	<p>① PC 関連だけでなく、書類や個人情報の取り扱いなど、職員全体にセキュリティ研修を行う。</p>
<p>5 持続可能な社会の実現に向けての取組</p>	
<p>全ての職員、全ての利用者が取り組みの意義や目標を知ることから始め、施設生活の中で継続していける身近なことから取り組んでいく。</p>	<p>① 施設内研修や利用者全体懇談会等を通して、SDGs について知る機会を作る。 1. 電気や水を無駄使いしない 2. 食品ロスをなくす 3. ごみを減らす・分別を徹底する 4. ペーパーレス化に取り組む 5. 災害に備える など、意識し行動する。</p>

VI 2025 年度 第三万寿園予算計画

1 当初予算概要

単位：千円

	2024 年度予算 ①	2025 年度予算 ②	差し引き (③=②-①)
事業活動収入 計	135,860	135,666	△194
事業活動支出 計	135,582	132,900	△2,682
人件費支出	91,793	92,622	829
事業費支出	29,526	29,671	145
事務費支出	13,962	10,327	△3,635
その他の支出	301	280	△21
事業活動収支差額	278	2,766	2,488
施設整備等収入 計	0	0	0
施設整備等支出 計	412	100	△312
施設整備等収支差額	△412	△100	312
その他の活動収入	2,800	0	△2,800
その他の活動支出	2,666	2,666	0
積立資産支出	166	166	0
拠点区分間繰入金支出	2,500	2,500	0
その他活動による収支差額	134	△2,666	△2,800
当期資金収支差額合計	0	0	0
前期末支払資金残高	20,046	20,046	0
当期末支払資金残高	20,046	20,046	0

2 当初予算における主な指標値 など

稼働率 : 100 %
 人件費率 : 68.27 %
 委託比率 : 1.58 %

事業活動収入内の補助金収入

92,870千円

内訳 東京都運営費 71,764千円
 サービス推進費 21,106千円

拠点区分間繰入金支出 : 本部会計への繰入金支出 2,500千円
 (国の運営費運用指導通知に基づき、前年度末支払資金残高から充当)